

小児科の外来診療あるいは入院診療を受けられた患者さんへ

「腎疾患発症における血中因子の役割の解明」研究への協力をお願い

当院小児科ではさまざまな小児腎疾患の診断と治療を行っております。小児ネフローゼ症候群・腎炎などを代表とする腎臓病はいまだ原因のほとんどが不明です。現在のところ患者さんの血液中の何らかの因子が原因の一つと推測されています。私達はこの腎臓病の原因検索のための研究を行っております。

【対象となる方】

2011年1月1日～2012年2月4日の間に本院小児科でネフローゼ症候群あるいは腎炎と診断され、治療された患者さん、および疾患対照症例（非腎臓病患者）として、小児科で治療を行われたその他のすべての疾患の患者さんが対象です。

【研究の目的】

この研究では患者さんの血液中のどのような成分が、どのように腎臓に影響を及ぼし、病気をおこすのか、そのメカニズムを明らかにすることを目的とします。

【研究の方法】

この研究は、厚生労働省の「疫学研究に関する倫理指針」を守り、倫理委員会の承認のうえ実施されます。研究材料として血液、尿、腎生検標本を用いますが、これまでの診療でおこなわれた血液検査や尿検査結果、病理検査などでえられた試料の残りを利用して行います。研究のために患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

現在ネフローゼ症候群の一部分で関与している可能性が指摘されているいくつかの因子<soluble form of urokinase receptor (suPAR) (*Nat Med* 17: 952-960, 2011)、angiopoietin-like-4(Angptl4)(*Nat Med* 17: 117-22, 2010)>の血中の濃度を測定します。

また血液中の成分がどのように腎臓に作用するかを再現するために培養細胞に血液を添加してその変化を解析します。

さらに腎生検を行った患者さんについては、保存してある腎生検の組織の残った部分を用いて腎臓にどのような変化が生じたのかについて分子レベルでの解析を行います。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局まで2013年12月31日までにご連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば下記までご連絡ください。ご不明な点がありましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

平成 25年 2月 4日

【問い合わせ、苦情等の連絡先】

研究責任者：張田豊

連絡担当者：張田豊

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院医学系研究科 小児科

Tel: 03-5800-8659 Fax: 03-3816-4108